

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171600253		
法人名	有限会社 あいケアー		
事業所名	たけのこし A舎		
所在地	岐阜県瑞浪市薬師町二丁目52番地		
自己評価作成日	令和 2年11月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年 1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171600253-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171600253-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 2年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お正月、クリスマス会、節分、七夕、敬老会などの外出が出来ませんが、室内でも季節を感じてもらえるような行事を行っています。  
 今年は花火大会が中止になってしまったので、駐車場で手持ち花火や噴出す花火をして楽しみました。  
 食事は三食とも職員がバランス、塩分等を考え調理し、利用者と共に食卓を囲みます。  
 季節・行事に合わせたメニューも取り入れたりと、食事の時間を楽しんでもらえるよう工夫しています。  
 天気の良い日には、外に出てお茶を飲みながら歌を歌ったりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍のため、ほとんどのホームイベントが中止となっている。そのような状況下で、利用者が楽しみにしているのは、「食事」である。  
 食事については、朝、昼、夕の三食とも食材を調達して、職員が手作り料理を提供している。利用者の好みに配慮して、丼物やカレーライスでも、具の入り具合や味付けの濃淡、調理手順など、一人ひとりに合わせて提供している。利用者はその工夫に対して、「完食」で応えている。  
 職員がオーダーメイド的な食事を提供しているのは、運営理念の「個人を尊重し、個性、可能性を活かし、その人らしい生活、人生を優しい心で支えてゆく」の実践に努めている証と理解出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム等に掲げ常に確認できるようになっています。ミーティングでは、利用者様の思いを共有し、どのように支援し実践に繋げていくかを話し合いをしています。	運営理念をホール及び事務室に掲示し、入職時に詳しく説明している。利用者の生活歴を聴きながら、その人に相応しい理念の実践をしている。介護計画についても、運営理念の反映を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルスの為、地域の行事や福祉祭りがすべて中止となり、交流できる機会がありませんでしたが、自治会の行事があれば参加しています。	今は新型コロナウイルス感染症の影響で、地域との交流を見合わせている。但し、隣に住む大家さんが野菜やタオル等の差入れに来訪する。その機会を利用し、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター・社協からの講演・勉強会には、できるだけ参加して意識の向上につなげ、運営推進会を通じて認知症や身体拘束のお話をさせて頂き理解や支援をお願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年のはたけのこしにて推進会議を開催することが出来ず、市役所、ご家族の代表、民生委員、区長宛に現状報告等を文章で送らせて頂きました。	運営推進会議には市職員、地域代表、民生委員、利用者家族等が出席して2ヶ月に一度開催していた。コロナ禍の4月以降は、書面形式で隔月に行っている。	会議の議題に目標達成計画の進捗評価を期待したい。また、会議メンバーの理解と支援を得るため、資料送付時に返信用封筒を同封し、意見聴取に努める事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市(福祉課・包括支援センター)や社協からの研修・会議等に参加するようにしています。市担当者には、何かあればその都度お話を伺っています。	コロナ禍以前は、市・高齢福祉課の職員が出席しており、ホームとの意思疎通は出来ている。生活保護を受給している利用者が数名おり、手続き等で市・社会福祉課との連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングでは身体拘束に関する具体的な禁止行為の話をしています。スタッフ同士声掛けをし、相談しながら身体拘束しないケアに努めています。	運営推進会議開催時に、身体拘束廃止委員会を行っている。従って、2ヶ月に一回の頻度である。会議ではスピーチロックの回避に努めると共に、ドラッグロック、フィジカルロックにも理解を深めている。リモートでスピーチロックの研修を受講した。	身体拘束廃止委員会の議事録には、日付、出席者、内容等を簡潔に記録することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで確認をしたり、職員同士でも、行動について注意しあったり、マニュアル等も参考にしながら防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様が いる為、職員には制度について理解してもらい 個々に合わせ対応し、活用出来るよう支援 しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約時には必ず、代表者と管理者立ち会 い、契約書を読み上げ、例を挙げ十分な説 明を行い、質疑応答でご家族様の不安を取り 除き、納得した上で契約を結んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	利用者様からは普段の会話から要望を聞い たり、家族様や外部の相談員(ケースワ ーカー・ケアマネ・専門医)等に相談して運営 に反映させています。	要介護認定の更新の時に利用者及び家族と 一緒に会うこと多く、この機会に要望などを聴 いている。家族の面会は玄関にて可能であ る。外出や外食支援の要望が多く、如何に叶 えるか思案している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや代表者が管理者・職員と、個 別に面談をし職場環境、労働条件等につい て意見交換をする機会を設けています。	法人代表が職員と個別に面談し、意思の疎 通を図っている。利用者の状態に相応しい介 助の仕方などの提案や相談があり、良いと思 われる方法は取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	代表が職員と面談したり、人事考課表を活 用したり、労務士と話し合いをしながら出来 る限りの職場環境・労働条件の改善に努め ています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	研修には参加できるように配慮しています。 リモート研修の場合は事務所にて参加をし ています。参加出来なかった職員には後 日、書面にて確認をお願いしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事 業者との意見交換・ネットワーク作りをして います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりとお話を聞き、不安を取り除いていけるよう心掛けています。 ケアマネや職員にも相談し、事前に支援内容を作り全職員に把握してもらうよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活で困っていたことや、これからのご希望をお聞きしたりと、ご家族様とのコミュニケーションも大切にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に代表者が利用者様・ご家族様と面談し、後日ミーティングで情報を共有し必要な支援をまとめ、対応できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心して過ごして頂けるよう笑顔で接し、何でも話せる関係を築けるよう、日々努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と電話で話す機会があれば、利用者様の様子をお知らせし、今後の支援につながるようお話をさせて頂き、共に支え合えるよう信頼関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙等の支援をしています。 毎月郵送で写真付「たけのこし便り」にて近況をお知らせしています。テレビ電話でお話しができる旨をお伝えし、気軽に利用して頂けるよう支援しています	コロナ禍により、馴染みの人や場所への支援は中断している。馴染みの場所へ出掛けることはできず、家族や知合いの面会も条件を付けて行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者様個々の状態・利用者様同士の関係を常に把握し、席などを配慮したり、職員が話題を提供して、孤立しないように声掛け等支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院したり、他の施設に移られた後も、ご家族様には声掛けをしています。退所後の相談にも努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の希望に沿えるよう、ご家族様に連絡を取り、ケアマネ・職員と相談し満足して頂けるよう支援しています。	自ら意思を伝える事が出来る利用者の割合が少ないのが実情である。従って、休息している時に寄り添ってきつ掛けづくりに努めたり、入浴介助の際に思いを誘発したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から生い立ちや生活歴を聞き、ケアプランに活かし、今までの暮らしに近い状態で過ごして頂けるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方は記録しており、個々の生活リズム・能力を把握し、少しでも変化があれば対応し、一人一人にあった生活が安心して過ごせるよう配慮しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の特徴を把握し、ミーティングで問題点を出し意見交換し、ケアプランの作成に生かしています。ご家族様には電話等で支援の相談させていただきます。	利用者の意向を介護計画に反映させている。基本的には3ヶ月ごとに見直しをするが、状態の変化や意向の変化があった場合はその時点で見直している。	利用者個々の意向を具体的に把握し、それを「総合的な援助の方針」に展開し、思いを叶えるためのプロセスを介護計画(長期目標、短期目標等)として示すことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・申送りノート・看護師の記録、職員からの聞き取りを基に、ケアプランを作成しています。ミーティングでも利用者様一人一人のケアの見直しを行ないます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様・利用者様の要望等を聞き、個々にあった対応をしています。要望があれば、できるだけ事は相談に応じ行う様に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの為に地域のイベント等が中止となってしまう大変残念ですが、利用者の心身状態を把握し、室内でも楽しく過ごせるようスタッフ皆で工夫しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常にご家族様と連絡を密にし、利用者様の状態に応じ受診、訪問診療を行います。適切な医療を受けられる様、転院の必要性も考慮して対応しています。	利用者全員が、協力医の毎月2回の往診を受けている。個別で受診が必要な利用者は家族が付き添うことが多いが、職員が柔軟に対応することもある。歯科診療は受診に出向いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、入浴時の皮膚等の観察、日常会話を通じて状態の変化に気を配り、看護師や訪問診療時に相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者に合った対応が出来るよう連携に努めています。退院後はサマリー等を参考にその後のケアに活かせるよう心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には事前にご家族様・看護師・医師と話し合いをし受入れ先等の相談をしている。場合によってはターミナルも視野に入れ支援しています。	重度化及び終末期の対応は、入居時に「医療連携体制に関する指針」並びに「看取り及び医療連携体制に関する指針」で詳しく説明し、同意を得ている。看取りも視野に入れており、協力医も理解を示し協力的である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。ミーティングでも都度確認をし、緊急時には落ち着いて対応できるように話し合いを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は新型コロナウイルスの為に、開催できませんでしたでしたが、いつもは運営推進会議で消防職員訪問による消火・避難・通報訓練やAED講習、他に1度の自主訓練、合計年2回、行っています。	防災訓練は年2回を基本としているが、今年度はまだ実施がない。例年、1回は消防署指導の下で火災を想定した訓練をしている。通報方法、消火器の扱い方、排煙窓等の具体的な指導を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しながら、笑顔で個々に合った言葉を選び気持ちを思って、声掛けするようにしています。	利用者の一人ひとり個性を見極めて、必要以上に踏み込まず、一定の距離を置きながら肯定的な態度で支援している。家族の様に接することに努め、声掛けも単調にならないよう工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の会話の中から思いをくみ取り、出来る限るご本人の希望に添えるよう心掛けて支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活習慣の流れの中で希望を聞き、一人一人のペースを尊重し、少しでも心安らかに過ごして頂けるよう、心掛け支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は2ヶ月に1度、美容師に訪問してもらいます。朝の洗面は声掛け介助し行います。入浴時には着たい洋服を自分で選んでもらうように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と毎食共にし、好き嫌いを把握しています。季節・行事に合わせた献立を立てています。台拭き等は声掛けをし出来る方をお願いしています。	食材は職員が調達し、朝、昼、夕の三食をホームで調理して提供している。利用者一人ひとりの嗜好や咀嚼・嚥下能力を把握し、調理の仕方や味付けに配慮して、「完食」してくれることに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はこまめに摂って頂き、1日の水分摂取量は記録に残しています。 食事は昼食に肉、夜は魚をメインにし、塩分・糖分・サイズには気を付けて調理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいをし義歯を洗います。自分で義歯を洗える方は洗ってもらいますが、後に洗い直しもします。週に1度は洗浄剤を使い、清潔を保っていただける様支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しており、時間をみながら早めの誘導をしています。個々に合ったパット等使用し、自立に向けた支援をしています。	排泄自立の利用者もいるが、多くは排泄記録に基づいて声掛け・誘導している。誘導の声掛けは、一人ひとりに合わせて工夫をしている。利用者の自尊心や羞恥心にも配慮し、見守り介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、水分を多めに摂って頂いたり、体操や、食材の大きさなどを工夫しています。それでも出ない場合は主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせた方法でゆとりを持って入浴して頂きます。ご自分で入浴準備の出来る方は、自分で用意して頂きます。5月は菖蒲湯、12月はゆず湯等、入浴を楽しんで頂けるよう工夫しています。	週2回の入浴を基本とし、午後の時間帯に同性介助で入浴している。誘導の声掛けを工夫し、見守りの間は利用者の思いや意向を聴くように努めている。季節の湯(柚子、菖蒲)も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴の後や疲れているとき、自席で居眠りをされているときなどは、自室で休んで頂けるよう声掛けをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧を作り個々の薬を把握しており、翌日1日分を夜勤者がセットし、薬の変更・追加の場合は受診記録に記載し申し送りしています。しっかりと服薬できたか職員同士確認します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かした家事・レクの役割をお願いしたり、畑仕事・パズル・カラオケ等、レクレーションを、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの為、面会・外出をお断りしており、外出等は出来ませんが、天候と体調に配慮しながら庭でのお茶会や花火、施設構内でのイベント等を開催しています。	コロナ禍のため、今年度はすべての外出イベントを中止している。しかし、自粛しながらも工夫を凝らして、庭(駐車場)を活用して外的な刺激に触れる機会作りをしている。更に、朝は体を動かしたり、大きな声を出したり、駐車場を散歩したりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身、買い物に出掛ける意欲や欲しいものがめっきり少なくなりましたが、職員が事前に(家族等より)好みの把握し、買物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方に連絡して欲しい、手紙を書いたので出して欲しいと言われる方の手助けをしています。手紙が難しい方は年賀状や絵手紙をご家族に送らせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事に合わせて、生活感・季節感を感じられるよう、花を飾ったり、外の景色が見えるよう工夫をしながら清潔かつ快適に過ごして頂ける様にしています。	ホール(共有空間)は、常に季節に相応しい飾り付けをして飽きが来ない様にしている。飾り付けは、利用者と職員と一緒に創作している。ホール清掃は利用者のいない夜勤帯に丁寧に行っており、清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様それぞれに自分の居場所を作って過ごされています。ソファでくつろいでいたり、お隣の席の方とお話をしたり、歌を歌ったり、テレビを観ていたり個々に合った席順を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時使い慣れた物を持って来てもらいます。以前の自室に近い状態を作れる様にしています。児童館の子供から頂いた物や家族の写真等、喜んで飾っていらっしゃいます。	居室の備え付けは、エアコン、ベッド、つり棚、照明、カーテンである。それ以外は、利用者の使い慣れた生活用品を持ち込んでいます。それらを配置し、これまで暮らしていた自室に近い「居室づくり」を目指している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の機能・要望を尊重し、様子を見ながら洗濯物を畳んだり、新聞を折って頂いたり、出来ることをお願いしています。出来る限りの安全は工夫し、確保しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171600253		
法人名	有限会社 あいケアー		
事業所名	たけのこし B舎		
所在地	岐阜県瑞浪市薬師町二丁目52番地		
自己評価作成日	令和 2年11月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年 1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お正月、クリスマス会、節分、七夕、敬老会などの外出が出来ませんが、室内でも季節を感じてもらえるような行事を行っています。  
 今年は花火大会が中止になってしまったので、駐車場で手持ち花火や噴出す花火をして楽しみました。  
 食事は三食とも職員がバランス、塩分等を考え調理し、利用者と共に食卓を囲みます。  
 季節・行事に合わせたメニューも取り入れたりと、食事の時間を楽しんでもらえるよう工夫しています。  
 天気の良い日には、外に出てお茶を飲みながら歌を歌ったりしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171600253-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171600253-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 2年11月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム等に掲げ常に確認できるようになっています。ミーティングでは、利用者様の思いを共有し、どのように支援し実践に繋げていくかを話し合いをしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルスの為、地域の行事や福祉祭りがすべて中止となり、交流できる機会がありませんでしたが、自治会の行事があれば参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター・社協からの講演・勉強会には、できるだけ参加して意識の向上につなげ、運営推進会を通じて認知症や身体拘束のお話をさせて頂き理解や支援をお願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年のはたけのこしにて推進会議を開催することが出来ず、市役所、ご家族の代表、民生委員、区長宛に現状報告等を文章で送らせて頂きました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市(福祉課・包括支援センター)や社協からの研修・会議等に参加するようにしています。 市担当者には、何かあればその都度お話を伺っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングでは身体拘束に関する具体的な禁止行為の話をしています。スタッフ同士声掛けをし、相談しながら身体拘束しないケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで確認をしたり、職員同士でも、行動について注意しあったり、マニュアル等も参考にしながら防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様がいる為、職員には制度について理解してもらい個々に合わせ対応し、活用出来るよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、代表者と管理者立ち会い、契約書を読み上げ、例を挙げ十分な説明を行い、質疑応答でご家族様の不安を取り除き、納得した上で契約を結んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは普段の会話から要望を聞いたり、家族様や外部の相談員(ケースワーカー・ケアマネ・専門医)等に相談して運営に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや代表者が管理者・職員と、個別に面談をし職場環境、労働条件等について意見交換をする機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表が職員と面談したり、人事考課表を活用したり、労務士と話し合いをしながら出来る限りの職場環境・労働条件の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には参加できるように配慮しています。リモート研修の場合は事務所にて参加をしています。参加出来なかった職員には後日、書面にて確認をお願いしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換・ネットワーク作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりとお話を聞き、不安を取り除いていけるよう心掛けています。 ケアマネや職員にも相談し、事前に支援内容を作り全職員に把握してもらうよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活で困っていたことや、これからのご希望をお聞きしたりと、ご家族様とのコミュニケーションも大切にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に代表者が利用者様・ご家族様と面談し、後日ミーティングで情報を共有し必要な支援をまとめ、対応できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心して過ごして頂けるよう笑顔で接し、何でも話せる関係を築けるよう、日々努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と電話で話す機会があれば、利用者様の様子をお知らせし、今後の支援につながるようお話をさせて頂き、共に支え合えるよう信頼関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙等の支援をしています。 毎月郵送で写真付「たけのこし便り」にて近況をお知らせしています。テレビ電話でお話しができる旨をお伝えし、気軽に利用して頂けるよう支援しています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者様個々の状態・利用者様同士の関係を常に把握し、席などを配慮したり、職員が話題を提供して、孤立しないように声掛け等支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院したり、他の施設に移られた後も、ご家族様には声掛けをしています。退後の相談にも努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の希望に沿えるよう、ご家族様に連絡を取り、ケアマネ・職員と相談し満足して頂けるよう支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から生い立ちや生活歴を聞き、ケアプランに活かし、今までの暮らしに近い状態で過ごして頂けるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方は記録しており、個々の生活リズム・能力を把握し、少しでも変化があれば対応し、一人一人にあった生活が安心して過ごせるよう配慮しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の特徴を把握し、ミーティングで問題点を出し意見交換し、ケアプランの作成に生かしています。ご家族様には電話等で支援の相談させていただきます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・送りノート・看護師の記録、職員からの聞き取りを基に、ケアプランを作成しています。ミーティングでも利用者様一人一人のケアの見直しを行ないます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様・利用者様の要望等を聞き、個々にあった対応をしています。要望があれば、できるだけ事は相談に応じ行う様に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの為に地域のイベント等が中止となってしまい大変残念ですが、利用者の心身状態を把握し、室内でも楽しく過ごせるようスタッフ皆で工夫しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常にご家族様と連絡を密にし、利用者様の状態に応じ受診、訪問診療を行います。適切な医療を受けられる様、転院の必要性も考慮して対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、入浴時の皮膚等の観察、日常会話を通じて状態の変化に気を配り、看護師や訪問診療時に相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者に応じた対応が出来るよう連携に努めています。退院後はサマリー等を参考にその後のケアに活かせるよう心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には事前にご家族様・看護師・医師と話し合いをし受入れ先等の相談をしている。場合によってはターミナルも視野に入れ支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。ミーティングでも都度確認をし、緊急時には落ち着いて対応できるように話し合いを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は新型コロナウイルスの為に、開催できませんでしたが、いつもは運営推進会議で消防職員訪問による消火・避難・通報訓練やAED講習、他に1度の自主訓練、合計年2回、行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しながら、笑顔で個々に合った言葉を選び気持ちを思って、声掛けするようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の会話の中から思いをくみ取り、出来る限るご本人の希望に添えるよう心掛けて支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活習慣の流れの中で希望を聞き、一人一人のペースを尊重し、少しでも心安らかに過ごして頂けるよう、心掛け支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は2ヶ月に1度、美容師に訪問してもらいます。朝の洗面は声掛け介助し行います。入浴時には着たい洋服を自分で選んでもらうように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と毎食共にし、好き嫌いを把握しています。季節・行事に合わせた献立を立てています。台拭き等は声掛けをし出来る方をお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はこまめに摂って頂き、1日の水分摂取量は記録に残しています。 食事は昼食に肉、夜は魚をメインにし、塩分・糖分・サイズには気を付けて調理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいをし義歯を洗います。自分で義歯を洗える方は洗ってもらいますが、後に洗い直しもします。週に1度は洗浄剤を使い、清潔を保っていただける様支援します。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しており、時間をみながら早めの誘導をしています。個々に合ったパット等使用し、自立に向けた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、水分を多めに摂って頂いたり、体操や、食材の大きさなどを工夫しています。それでも出ない場合は主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせた方法でゆとりを持って入浴して頂きます。ご自分で入浴準備の出来る方は、自分で用意して頂きます。5月は菖蒲湯、12月はゆず湯等、入浴を楽しんで頂けるよう工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴の後や疲れているとき、自席で居眠りをされているときなどは、自室で休んで頂けるよう声掛けをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧を作り個々の薬を把握しており、翌日1日分を夜勤者がセットし、薬の変更・追加の場合は受診記録に記載し申し送りをしています。しっかりと服薬できたか職員同士確認します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かした家事・レクの役割をお願いしたり、畑仕事・パズル・カラオケ等、レクレーションを、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの為、面会・外出をお断りしており、外出等は出来ませんが、天候と体調に配慮しながら庭でのお茶会や花火、施設構内でのイベント等を開催しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身、買い物に出掛ける意欲や欲しいものがめっきり少なくなりましたが、職員が事前に(家族等より)好みの把握し、買物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方に連絡して欲しい、手紙を書いたので出して欲しいと言われる方の手助けをしています。手紙が難しい方は年賀状や絵手紙をご家族に送らせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事に合わせて、生活感・季節感を感じられるよう、花を飾ったり、外の景色が見えるよう工夫をしながら清潔かつ快適に過ごして頂ける様にしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様それぞれに自分の居場所を作って過ごされています。ソファーでくつろいでいたり、お隣の席の方とお話をしたり、歌を歌ったり、テレビを観ていたり個々に合った席順を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時使い慣れた物を持って来てもらいます。以前の自室に近い状態を作れる様にしています。児童館の子供から頂いた物や家族の写真等、喜んで飾っていらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の機能・要望を尊重し、様子を見ながら洗濯物を畳んだり、新聞を折って頂いたり、出来ることをお願いしています。出来る限りの安全は工夫し、確保しています。		